



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

ニュースレター

発行元 : SID日本支部
 発行責任者 : 篠田 傳
 発行日 : 2005年01月16日

日本支部

第 28 号

前支部長挨拶

静岡大学 下平 美文



S I D日本支部長をお引き受けした2年前に、当時大きな社会問題になっていた製造業の海外移転に対して、製造業の復権を期待する声を紹介し、この流れにわずかでも貢献できれば幸いであると述べました。もちろん学会として特別なことができるはずはありませんが、幸いなことに、全世界のディスプレイ産業は成長を続け、日本のこの分野の産業も回復基調になってきました。部分的ではありますが、ディスプレイ産業が生産拠点を国内に置く動きも見られます。さらに、ここ2年の間で支部会員は増加傾向を示し、千名を超えました。したがって、支部としての危機はひとまず減少したものと考えられます。

このような状況の下で、支部の活動としては、国内のディスプレイコミュニティを構成している諸団体と共に、この産業に関連する技術者・科学者の学術的な交流を促進しそのポテンシャルを高めることが任務の一つであります。S I Dの多国籍な学会としての役割は益々大きくなっていることが痛感させられます。当然、日本支部の役割も大きなものがあると感じます。すなわち、日本だけに留まらず、発展著しいアジア地域のディスプレイに関連する科学・技術の進歩に貢献することです。支部活動を振り返ってみると、微力ではありますがこのお役に立てたのではないかと自己評価する次第です。

いまや、ディスプレイの国際会議としてI D Wは広く認知されるようになりました。2年前には参加者が千余名であったものが、本年度では千四百名を超えるまでに成長しました。参加国(一部地域を含む)は20ヶ国におよびます。ディスプレイに関する科学と技術について有効な討論の場、意見交換の場を提供し、お互いを啓発するために益々充実することを願うものであります。これに対して日本支部が微力では有りますが貢献できたのではないかと思います。

支部の新しい活動を具体的に振り返ってみると、I D Wで研究発表する学生に対する発表支援を2004年度から開始しました。支部に活力を与えるためには、若い力がどうしても必要であります。そのためにも、わずかではありますが若い力の成長を促すことを目的にしています。初年度は、この制度に対する理解が浸透していないこともあり、I D Wで研究発表した学生は数十名いたにもかかわらず、援助申請者は5名ということになりました。多くの会員に対して、本制度についての理解を得る方策を考える必要があります。

S I D本部の規約改正に伴い、年末の支部総会において、支部の規約を修正致しました。主な変更点は、役員を選出に電子投票を使うことになりました。このことにより、全ての皆様のご意見を役員を選出において迅速に反映することができるようになりました。

支部財政の健全化を推し進めるために、支部会費の支払いをコンビニから行うことができるようにしました。これにより、支部財政上で大きな経費の節約が可能になり、さらに会員の皆様にとっても利便性が増したのではないかと思います。

苗村元支部長の時代にI D Wを10倍楽しむために開始されたチュートリアルも、I D Wワークショップのご協力を頂き、多数の方の参加を頂けるように定着して参りました。S I D会員の掘り起こしと、I D W参加者の新たな学習の機会として、益々活用して頂きたいと思っております。さらに、ディスプレイの分野で大きな成果を残された方をたたえるために Awards の推薦にも力を入れました。お陰様で多くの方のご指示を頂き、全S I D支部の中では際だって多くの方が Awards を受賞されましたことは、大変喜ばしいことでした。

以上、在任中の主な事柄を振り返ってみました。これらの実現については、おもに多数の方にご参加をいただいた報告会などを中心に担当された篠田副支部長、会員間の情報の伝達、色域拡大

について特集を組んだニュースレターの発行などに携わられた長谷川庶務幹事と市田庶務幹事補佐、会費徴収方法の変更と財政の健全化、会員へのメールによる連絡などを担当された、金子会計幹事と本山会計幹事補佐をはじめとする多くの皆様のご協力のお陰であります。紙面をお借りして、皆様のご協力に感謝申し上げます。

最後に、新年度からは篠田支部長を中心とする新しい執行部の方に、日本のそして世界のディスプレイコミュニティをリードして頂くことを祈念して、退任の挨拶といたします。

新支部長挨拶

富士通研究所 / 東京大学 篠田 傳



SID 日本支部支部長を勤めさせていただくことになりました。私は学生時代にプラズマディスプレイパネル (PDP) の世界に身をおくようになりました。1970 年のことですから 30 年以上 PDP に携わっています。カラー PDP 構造・駆動法の基礎開発、実用化、製品化、製造技術までの広い範囲を経験しました。いまでは、PDP は大画面薄型テレビの新市場を創出し、小中画面の液晶と住み分けて薄型テレビ・薄型ディスプレイの市場の発展に貢献できていることは大変幸運であったと思います。

日本経済は回復基調にあるといわれるようになりましたが、三種の神器といわれるデジタル家電 (薄型 TV、DVD、デジタルカメラ) や携帯電話などなど、いずれもディスプレイが大きく寄与しています。さらに PC の時代からホームデジタル技術の時代への流れはとどまることなく、ますます高性能で高機能なディスプレイの発展を必要としています。

一方、日本のディスプレイ産業はデバイスのみならず、基盤材料、基盤部品、製造装置など幅広い分野の総合力で支えられています。さらに、基礎開発から応用開発までの幅広い産業体制を持つことも強みとしています。これを維持し続ける限り、日本のディスプレイ産業の競争力は維持でき、ディスプレイ産業界のリーダーとして世界に貢献できるでしょう。このためには、先端技術の開発を続けることが必要であり、大学から産業界までの幅広い協力強化を図るとともに、若いエンジニア、学生などの人材育成が重要だと思われます。

SID 日本支部は、映像情報メディア学会の情報ディスプレイ研究委員会、電子情報通信学会の電子ディスプレイ研究専門委員会などの諸団体とともに日本におけるディスプレイコミュニティを構成していると同時に、多国籍な会員で構成する国際学会：SID の構成員でもあります。したがって、ディスプレイに関連する分野の進歩に国籍を問わずに貢献すること、特に、発展著しいアジア地域の国々と共に科学技術の進歩に貢献することも重要であります。

この意味では、これまでと同様に SID 日本支部は IDW の組織・運営に貢献していきます。IDW は発足以来 10 年を超え、参加者も 1000 人を越えるようになり名実ともに 21 世紀のディスプレイ科学技術を先導する世界に通用する国際学会のひとつに成長しました。ますますの発展を願うものであります。

上記のような環境の中で、SID 日本支部の更なる活躍の場はないだろうか、日本支部長となった今、改めて考えています。SID 日本支部が会員の皆さんや日本のディスプレイ業界にどのような貢献ができるか、茨木副支部長をはじめとする役員のみなさんとともに考え、実行していきたいと思っております。同時に、会員の皆様からも支部活動へのご希望をお寄せいただきたいと思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

SID日本支部 2005年度執行部構成

2005年1月現在での、SID本部の日本人役員、及びSID日本支部役員の構成と役割をご紹介します。

SID本部 日本人役員

SID Executive Committee (President) : 御子柴 茂生 (電通大)
 SID Executive Committee (Regional President, Asia) : 前田 誠
 SID Directors (Japan) : 苗村 省平 (メルク)

SID日本支部役員

役員はExecutive Committeeの承認のもとに、下記の各種委員会や主幹(Chief Staff)の協力を得て、支部の事業を遂行します。

支部長 : 篠田 傳 (東京大学/富士通研究所)
 文字通り、日本支部の舵取り役です。SID日本支部は映像情報メディア学会の情報ディスプレイ研究会、電子情報通信学会の電子ディスプレイ研究会などの諸団体とともに、日本におけるディスプレイコミュニティを構成しています。
 主な活動は、IDWの運営支援、SID、IDW報告会などの他学会と共同での各種研究会の運営などがあります。

副支部長 : 茨木 伸樹 (東芝松下ディスプレイテクノロジー(株))
 支部長の支援と共にIDWチュートリアルなど、日本支部が主催する研究会、行事などを企画します。

庶務幹事 : 市田 耕資 (ソニー(株))
 日本支部の委員会の運営、本部への報告書作成、Awardの推薦依頼などを行います。

会計幹事 : 本山 靖 (NHK技術研究所)
 会員情報の管理、会費の徴収、名簿の作成、各種委員会の支払いなどを行います。

庶務幹事補佐 : 村井 隆一 (松下電器産業(株))
 ニュースレターを発行し、支部会員及び年3回開かれるSID本部のBoard MeetingでBoard memberの方々に配布します。

会計幹事補佐 : 木村 宗弘 (長岡科学技術大学)
 会計幹事の支援、会員へのメールによる情報発信などを行います。

常設委員会

Executive Committee (通称、コア委員会)
 支部の各事業を指揮、監督します。日本支部ダイレクターと支部役員6名の計7名が投票権を持つメンバーです。今年度はこの他に数名の正会員に委員を委嘱中です。

評議委員会
 年2回の評議委員会を開催して、SID各種Awardの推薦を審議する等、日本支部の活動を議論します。

メンバーシップ委員会 : 本山 靖 会計幹事
 会員情報の更新、管理、本部への報告などを行います。

プログラム委員会 : 茨木 伸樹 副支部長
 日本支部主催の行事を企画します。

主幹 (Chief Staffs)

Chief Staff of DYA (Display of the Year Award)
 SIDのDisplay of the Year Awardの推薦候補を取りまとめます

Chief Staff of Honors & Awards
 SIDの各種表彰者を推薦します。

Chief Staff of Home Page : 市田 耕資 庶務幹事
 日本支部のホームページの更新管理を行います。

以上、役員、コア委員会委員、評議委員会委員、各主幹によってSID日本支部が運営されています。日本支部の活動に対する皆様からのご意見、ご要望をお待ちしています。

2005年度 研究会日程

=== IDRC/IMID '04 / 12th CIC国際会議報告会のお知らせ ===

2004年8月および11月にそれぞれ開催されたIDRC/IMID'04国際会議、および第12回CIC国際会議の報告会を開催致します。会議に参加された6名の方々に、会場での話題や発表された新技術について報告して頂きます。

日時：2005年2月10日（木） 13:30～16:50

場所：東京・機械振興会館 6階67号会議室

参加費：無料（予稿資料代金¥1,000程度の予定）

問合せ先：富士通研究所 粟本 awamoto.kenji@jp.fujitsu.com

日程	研究会名	開催地
1月27～28日	発光型、非発光型ディスプレイ合同研究会	佐賀市交流センター
2月3～4日	映像メディア及び一般合同研究会	NHK 札幌放送局/札幌市民会館
2月10日	IDRC'04, IMID'04, CIC 合同報告会	東京・機械振興会館
2月21～24日	IDMC'05	Taipei, Taiwan
2月24日	エレクトログラフィック研究会	東京・機械振興会館
3月3日	表示記録用有機材料及びデバイス・一般	東京・機械振興会館
5月22～27日	SID'05	Boston, U.S.A
7月7～8	3次元画像コンファレンス2005	東京大学 武田先端知ビル
7月	SID 報告会	東京
8月25～27日	映情学会年次大会	東京 工学院大学
9月19～22日	EuroDisplay'05	Edinburgh, UK
10月	視覚と画質および一般	
11月	高臨場ディスプレイフォーラム	
12月	IDW'05 チュートリアル	高松
12月6～9日	IDW'05/Asia Display'05	高松

編集後記

23号から28号まで、News Letterの編集を担当してきました。原稿の依頼に快く応じて頂いた皆様、ご意見、ご助言を頂いた皆様、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

編集担当：市田耕資（ソニー）

電話：046-202-8050, FAX：046-230-6037